福島の方の話と「大間原発」、「あさこはうす」

メゾソプラノ　　M.T

＜北海道のうたごえの仲間と小笠原さん＞

大間原発の周りをぐるりと柵が取り囲み、その柵の中に「あさこはうす」はあります。「ここから私有地」という看板から、８００M歩くと半分くらい建築された大間原発が目の前にあり、そのすぐそばに「あさこはうす」がありました。民家のすぐ目の前に超危険な原発を建てるなんて、政府や電源開発は狂気の沙汰としか思えません。熊谷あさ子さんが亡くなった後も何があっても原発に反対し「宝の海」を守りたい、土地を売らないというお母さんの遺志を守り続けるのは、娘さんの小笠原厚子さん、そして、お孫さんの奈々さん。周りにはもちろん民家もなく、犬と羊と一緒にきれいな花や畑を作り、支援物資を売って活動を支えています。「あさこはうす」があることで、原発建設を遅らせ、原発反対の力になっていると小笠原さんは決意を込めて話してくださいました。

また、前日の交流会で福島の方に町の様子を伺いました。その方は「除染したものを入れたフレコンバックは耐用年数が 5 年で雑草がはみ出し、その周りで子どもたちが遊んでいる。また、県民の反対の声を聴かず、国がモニタリングポストを撤去し始めている。そんな酷い状態が僕たちの日常なのです。」と。私は何も言えず、ただ、聞いているだけでした。今年 3 月の段階で、甲状腺がんや疑いのある子どもたちは 196 名に増えています。未だに何も解決できていないのに、国は避難指示を解除し支援を打ち切り、何事もなかったかのように、2030 年の電源構成で原発比率を 20 ～ 22 %にすると「第 5 次エネルギー計画」で明記しています。私は、大間、福島に生きる人々のこの思いを「大間原発 NO!」のステージでみなさんと一緒に歌い伝えていきたいと思います。そして、国が福島の人々の生活、医療、住居など全てを保障し、責任をはたすこと、そして、全ての人が二度とこのような辛い思いをしなくてもいいように、原発の廃止をすること、そのためにうたごえが大きな力となることを期待したいと思います。

＜小笠原さんの話を聞く＞

＜あさこはうすの目の前には建設中の大間原発＞